

■ テーマ名

「歴史総合」の実施に対する中高大接続を視野に入れた初年次教育の再構築

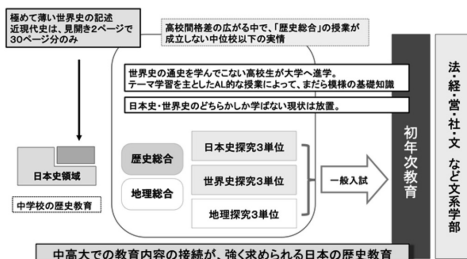
■ キーワード

中高大接続、学士力向上、初年次教育、大学での歴史教育、「歴史総合」

■ 研究の概要

大学入学生の多くで歴史の基礎知識に偏りが見られます。また、公募制推薦入試及び一般入試において、地歴科目を受験で使わない学生が増えており、文系学部では世界史・日本史の知識が不十分のまま、学部の専門的な学びに入っていく現状にあります。高校の世界史教育では、中学校の教科書の世界史部分の記述が薄い内容を補わないまま「歴史総合」で日本史と融合させ、さらには通史を教えずテーマ学習での授業展開を学習指導要領で推奨されています。高校現場ではこの3年の経験を通じて、新たに中学高校間の授業内容の接続が重要であると認識されてきました。

大きく変わった高校での世界史教育の手法が、大学入学生の基礎教養に深刻な影響をもたらすものと推測します。高校間格差の存在を見据えた「歴史総合」の授業のあり方を提案し、入試が選抜機能を十分に持たない大学での、中高大接続の視点から、学士力向上に向けた初年次教育における歴史系教養科目の再構築をめぐります。



■ 他の研究/技術との相違点

進路指導と入試改革を主眼とする高大連携ではなく、大学の学部教育で求める基礎教養・中学まで視野を広げた高大接続という、二つの視点による歴史教育を再構築するものです。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

大学での初年次教育における歴史系科目の目的を明確にし、学部教員と連携して授業内容を精査し協議することで、学部へ送り出す学生のレベル向上が期待できます。

中学の歴史教科書と高校「歴史総合」との整合性を検討することで、多忙な高校現場に新たな授業改善案が提供できます。

■ 関連業績 (特許・文献)

帝国書院「歴史総合」資料集『明解 歴史総合図説シンフォニア』(3訂版)分担執筆, 帝国書院世界史教科書「新詳世界史B」教員用指導資料(2018年版)分担執筆, 「高大接続から見た大学の初年次教育のあり方について」関西大学高等教育研究第10号(2019年3月)「新科目「歴史総合」の実施に対する大学教職科目の修正案」関西大学教職支援センター年報2018年, 「大学教育における歴史系教養科目のあり方について —歴史教育における高大接続—」教育開発ジャーナル第11号(2021年3月), 「コロナ禍での大学1年次生の学びの軌跡 —2020年度~21年度前期におけるリモート授業「近現代史概論I・II」の記録—」共通教育研究紀要第7号(2022年3月)

■ 研究者から一言

日本の多くの私立大学が直面している喫緊の課題です。高大接続の本領は入試改革ではなく教育連携・カリキュラム連携にあり、現状を改善するための現実的な提案でなければ意味がありません。